

はじめに

人生設計の基本的な考え方は将来必要になる支出に適切に備えることである。

あなたが、将来結婚して、自分の家を持ち、子供を育てて、不安のない老後を送りたいと考えているとしよう。結婚の費用や家の購入費用、教育のための費用、老後の生活費など、将来必要になる支出をそのときの収入で賄えれば問題ないが、収入が足りず、資産の蓄えもなければ支出をあきらめなければならなくなってしまう。

そうならないように、計画的に準備をすることが人生設計である。将来の支出を増やすためには、現在の支出を抑制して貯蓄しなければならない。現在の支出を増やせば、将来の支出をあきらめざるを得ない。将来に備えることも大事だが、必要以上に貯蓄をすると「若いときにもっと楽しめばよかった」と後悔することになりかねない。

どのような人生を送りたいかは人によって異なるし、現在と将来のどちらを重視したいかも人によって異なるが、自分の理想となる人生が実現できるように計画をした方がよいことは共通に言える。

特に、重要なのが老後への備えだ。

定年退職をし、高齢のために体力が衰えて働けなくなると労働の対価として得られる所得は少なくなる。高齢になっても生活のためには一定の支出が必要であるから、十分な備えがないと老後の生活が困窮することになる。現在、高齢者の貧困が社会問題化しており、国も対策を検討しているが、財政が厳しい中で社会保障制度に依存するこ

とは現実問題として難しい。あとで後悔しないように自分の老後は自分で守るという意識が必要である。

## 1. 生涯所得を予想する

将来を見越した人生設計をするうえで重要なことは生涯にわたって所得がどのようになるかを予想して、問題の全体像を理解することである。

2, 3年後までは容易に予想ができるかもしれないが、20年後、40年後となるとあまり考えていない人が多い。

平均的な所得の推移などを参考にしながら、将来どれぐらいの所得が得られるのかを把握してみよう。

会社勤めの人や公務員は所得が比較的安定しているが、自営業の人たちは所得が不安定かもしれない。

そのような場合は、所得が少なくなった場合を想定して予備的に貯蓄をすることも重要になる。

## 2. 貯蓄資産の運用

将来のために貯蓄した資産を将来に持ち越す方法はいくつかある。現金や預金で持ち越す方法は安全ではあるが、収益はあまり期待できない。

株や債券、不動産などで運用した方が一般に収益性が高いがリスクがある。その他、資産形成の章でも学んだように、実物資産や人的資産に投資することもできる。

一般に収益性の高い投資機会ほどリスクが高いので、収益性を求めるならばある程

度のリスクは覚悟しなければならない。

### 3. リスクへの対応

誰しもできればリスクは避けたいところだろうが、ある程度収益性を確保するためにはリスクをとる必要がある。

リスクを取るときに注意をしたいのは第4章、第11章で学んだように、リスクの分散化とリスク許容度の認識である。

リスクの分散化とは投資対象を集中させずに分散させることで投資全体のリスクを軽減させる手法である。

たとえば、携帯電話の主要な3社のどれか一つだけに投資をした場合、その会社が競争に敗れてしまえば大きな損失を被ることになるが、3社すべてに均等に投資をしていれば、競争でどの会社を買ったとしても大きな損をするリスクは小さくなる。

ファイナンスの世界では、リスクを軽減する方法としてあらゆるリスク資産に投資することを推奨する考え方もある。グローバル化が進んだ現代社会においては国際分散投資も検討したいところだ。

一方、リスク許容度とはどの程度のリスクを負担できるかだ。一般に所得が低く、資産が乏しい人は資産運用のリスクによって、生活が困窮してしまう可能性が高いので、大きなリスクは許容できない。自分がどの

程度のリスクを許容できるのかを判断して、リスク資産への投資比率を決定することが求められる。

### 4. 消費の平準化

多くの人は増減の激しい消費のパターンよりも、安定した消費のパターンを好む。このため、賢明な消費者は生涯予算制約を満たしながら、消費の変動が大きくならないように消費のパターンを均そうとする。これを消費の平準化という。

もしも資産運用の収益率が0%であるならば、生涯所得の合計を生存年数で割った金額を毎年消費するのが最適な消費の仕方ということになる。

資産運用の収益率は平均してプラスになるので、若い時に消費を抑えることで、生涯支出の合計を大きくすることができる。

どの程度現在の消費を抑えるのがよいのかは、個人の好みや価値観の問題になるが、消費の平準化だけを考えれば、少しずつ消費が増えるような消費をするのが賢い人生設計ということになる。